あぜみち

◆私の住む智頭町は全国でも有名な林業の町です。民有林一七、二三〇haのうち、人工林は一三、五二三haで、人工林率七八・五％です。農業との複合経営で、美林を育て、長伐期大径木を志向しており、昭和三〇年代空前の木材バブルを経験しました。伝統的に林家は殆んど立木売りで、素材業者に商いをしています。

ところが今日、外材のシェアは八二％以上を占め、指標である杉中目材の相場は、一万三千円／㎥となり、山元立木価格は限りなくゼロに近づいてきました。

我町も林道網の整備、機械化の推進、若年労働力の確保等、真正面から改善に取組んでいますが厳しい現実に直面していま す。

我家は昭和五〇年代前半よりバックホウを購入し、自力で作業道を開設し、ha当り一〇〇mの路網を完成させました。高樹齢林内の抜き切り、市場調査、受注生産など工夫を重ねながら町内にある原木市場へ毎回（月三回）夫婦で出材していますが、材価の下がった分出材量を増やさざるを得ません。林業研究会メンバーで話し合い、県当局とも相談し将来像を模索しています。林業機械の共同購入、モデル林の設置、都市との交流等です。

昨秋鳥取市の方々が三回視察に来られ、小学生の目の前で杉を伐倒しました。お母さん達がさかんにシャッターを切り、子供達は歓声を上げていました。日常生活の中で林業分野への関心はとかくうすれがちです。

公民館で昼食を取りながら、国産材の内装材利用、一級建築士との交流、森源流を訪ねる企画等意見交換会をしました。

私達林研会員の中に、製材所を経営されている方がおられ、展示モデルハウスを智頭杉で完成されました。一二〇年生杉原木の家の提案です。林業は息の長い仕事です。

木のある暮らしを自信を持って発信できるよう今年も努力していきたいと思っています。

（鳥取県智頭町　赤堀完治　林業）